

2022年度 「AI・データサイエンス応用基礎教育プログラム(工学部)」、 「AI・データサイエンス応用基礎教育プログラム(環境学部)」、 「AI・データサイエンス応用基礎教育プログラム(生命学部)」の自己点検・評価

本教育プログラムは1年次及び3年次の2科目で構成しており、令和6年度末から修了者を出していく計画である。
プログラム運用1年目を終えて、今年度実施した「AI・データサイエンス入門」に対して自己点検・評価した結果を下表に示す。

自己点検・評価の視点	結果
1. プログラムの履修・修得状況	<ul style="list-style-type: none">● 本教育プログラムは、1年次必修科目「AI・データサイエンス入門」及び3年次選択科目「AI・データサイエンス応用」の2科目で構成している。本教育プログラムは1年次必修科目からスタートするため、全員が履修を開始した。● 3年次選択科目「AI・データサイエンス応用」も着実に履修させるため、1年次必修科目「AI・データサイエンス入門」や関連科目、在学生ガイダンスにおいて履修を強く推奨し、本教育プログラムの修了率を高い値で維持していく予定である。
2. 学修成果	<ul style="list-style-type: none">● 1年次必修科目「AI・データサイエンス入門」の履修前後で学習効果測定用テストを実施し、AIに対する正しい認識が多く持てるようになったことを定量的に確認した。実データを用いた演習内容の改善、他の専門科目と関連付けた説明、SA導入によるサポート体制強化などが効果を発揮した。
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<ul style="list-style-type: none">● 授業アンケートの結果(回答率:50.8%)、1年次必修科目「AI・データサイエンス入門」の到達目標を達成したかどうかの問いに対し、「ほぼ達成した」と回答した学生が48.2%、「ある程度達成した」と回答した学生を含めると95.6%となり、非常に高い割合となった。今年度はアンケート回答率が低かったため、来年度は回答への協力依頼を強化する。
4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<ul style="list-style-type: none">● 昨年度運用を開始した教育プログラムであるため、修了者を出した後は、修了者へのインタビュー記事や企業から見た本プログラムへの期待などを後輩学生に伝えていく。
5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<ul style="list-style-type: none">● 本教育プログラムは、1年次必修科目「AI・データサイエンス入門」及び3年次選択科目「AI・データサイエンス応用」の2科目で構成している。3年次選択科目「AI・データサイエンス応用」も着実に履修させるため、1年次必修科目「AI・データサイエンス入門」や関連科目、在学生ガイダンスにおいて履修を強く推奨し、本教育プログラムの修了率を高い値で維持していく予定である。

自己点検・評価の視点	評価理由
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 2023年3月時点で本プログラムを修了した卒業生はおらず、自己点検・評価の対象外とした。 ● 本学が主催する企業懇談会等の機会を活用して採用担当者や卒業生にアンケート調査を実施し、教育プログラム修了者の企業における活躍状況や、本教育プログラムの学修効果等について把握していく計画である。
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 上の項目と同様に、企業懇談会等の機会を活用してアンケート調査を実施し、教育プログラムの講義内容や実データを活用した演習等の手法について意見・要望を収集し、プログラムの改善に活用していく計画である。 ● 広島県と連携し、本教育プログラムの動画教材の一部を県内の他大学・短期大学の学生や企業の方々にオンデマンドで受講頂けるように準備を進めた。令和5年度から学外からのフィードバックが入りやすくなる工夫を施すことができた。
8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<ul style="list-style-type: none"> ● 座学だけでなく、AI・データサイエンスの活用体験を取り入れ、それらの必要性や意義、適用領域を学生が説明できるようになることを学習目標に進めている。 ● 将来的には、AI・データサイエンス人材育成を目的とした企業インターンシップを設計し、学ぶことの意義をさらに高いレベルで実感できるように発展させていく計画である。
9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<ul style="list-style-type: none"> ● 担当教員から見た学生の反応等に基づき、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを行っている。 ● 授業が全て終了した後のアンケート調査以外に、途中段階でミニツッパーパーや確認テストを実施することで、学生の理解度が低い部分をタイムリーにサポートした。